

「仕事ができる社員、できない社員」という本からです

**整理がうまい人、へたな人 なぜ、できる人の机は一目瞭然なのか？**

パソコンのデスクトップにファイルがいっぱい置かれたままになっていると、パソコンの動きが遅くなります。同じように、机の上が整理されていないと、仕事の処理スピードは遅くなるのです。机の上がごちゃごちゃになっているということは、頭の中もやはりごちゃごちゃな状態であると考えていいでしょう。仕事をすることはできても、効率は必然的に落ちてしまいます。今日やるべき仕事のひとつひとつに締め切りを決めて、「何時何分までにこの仕事を終える」としたとき、机の上にその他の仕事が山積みになっていたら、終えるべき仕事も終えられないでしょう。目の前には今やるべき仕事だけが置かれていて、残りの仕事は机の中にしまわれているという整理された状態をつくる必要があります。それが本来あるべき姿なのです。机が散らかっている人は、そもそも仕事を片づける順番が決まっています。どの仕事をいつまでに終えるのかが曖昧なため、一つの仕事にちょっと手をつけては、他の仕事が気になってそちらに手をつけるというようにあちこちに気が散ってしまいます。たくさんの仕事が一度に目に入ってくるので散漫になるのです。時間的に追い込まれている感覚がずっとつきまとい、当然仕事への集中力も維持できません。

私は、トリンプの社長時代、整理整頓、クリアデスクを徹底しました。机の上には余計なものを置かないルールになっていたので、毎週水曜日に総務の人間に見回りをさせ、余計なものがあったら問答無用で捨てさせました。工場では、壁や機械にテープを使って何か貼るのも禁止し、貼ってあるのを見つけたらその場ではぎ取って捨てました。テープをはずした跡がついた机は廃棄します。とにかく徹底しました。物流の工場では、ベルトコンベアから移動させた商品を積み上げて置いておくためのパレットの数を、どんどん減らしていきました。数十億円も投資した物流でしたので、すべてのカートンがベルトコンベアに載っていなければ効率が上がらないと考えたからです。結果的に、繊維業界においてそれまで類を見なかった物流の自動化を実現し、多いところでは販売高の約七パーセントはかかる物流費を、三パーセント台にまで抑えることに成功しました。三、四年もすれば、投資した数十億の元が取れる数字です。さらにこのシステム改革がいい効果をもたらしたのは、他社から工場を見学に来られる方たちが増えたことです。工場で働く社員たちは、お客さんが感激して帰っていく姿を見て、自分の会社や仕事に自信を持てるようになったのです。愛着も湧いたでしょう。その気持ちがモラルの工場につながり、やる気につながりました。やると決めたら徹底することが、いい方向へとつながるいい見本といえるでしょう。

とにかく、机の上を見るだけで、仕事ができる社員かそうでないかわかります。机の上が整理されている人は、一つのことに集中できる人です。心に余裕があり、精神的に追い込まれることがほとんどありません。何事があっても、順番に一つずつ片づけていけばいいと知っているからです。頭の中がきちんと整理できているので、心も安定しています。必然、集中力も高まりますから、仕事も問題なくこなせます。机の上が整理されているという単にそれだけのことで、すべてがいい方向へ進むのです。ですから、机は常に整理整頓しておいてください。自分の机が散らかっているという人は、ちょっと冷静になって考えてみるといいと思います。その机は、整理されていない自分の頭の中をさらけ出しているようなものです。上司にも部下にもすべて見られています。そう気づけば、恥ずかしくてそのままにしておけないのではないかと私は思うのです。

本来あるべき姿とはどのような状態ですか？

( )

自分の机が散らかっているという人は、ちょっと冷静になって何を考えてみるといいと言っていますか？

( )